

# 歯科衛生士

**必要な国家資格**

**歯科衛生士**

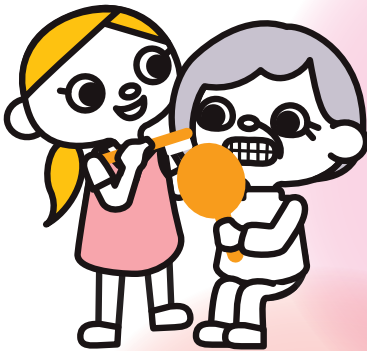
## 歯科衛生士の魅力

現在、日本の歯科衛生士は、ほとんどが女性です。女性が社会に出るためには、家事にはじまり、結婚や出産、子育てなどいくつもの問題がありますが、基本的に夜勤や休日出勤はなく、勤務時間も決まっているため、それらは解決できることが多く、女性に向けた職業といえます。また家族の転勤などで転居しても、全国で就職・復職しやすいのも魅力です。子どもから高齢者まで、年齢層を越えていろいろな人と接するので、人と接してその人の役に立ちたいと思う人には向いている職業です。



## 歯は「治す」から「守る」という考えへ。 これからの歯科医療でのキーマン。

歯科医師の補助業務だけが歯科衛生士の仕事ではありません。高齢化に比例して健康への関心は高まるばかりです。健康な生活のために、おいしく食べることは欠かせません。そのための口腔ケアの方法など保健指導や公衆衛生活動、他職種との連携など、院内ばかりでなく、今や歯科衛生士は地域全体で口腔の健康全般を担う存在です。



### 医療分野

#### ●歯科診療所(クリニック)

歯科診療所の運営全般に関する業務を行っているケースが多く、活躍している人が一番多い分野です。

#### ●病院の歯科

大学付属病院や一般病院の歯科・口腔外科に勤務します。

#### ●歯科訪問診療

医師と一緒にご自宅や施設に伺い、歯科治療や口腔ケアを行います。

### 福祉・保健分野

#### ●保健所

歯科保健の事業をどのように展開していくか、実施計画を立てたり、体制の整備といったプランナーとしての役割を担っています。

#### ●保健センター

保健所が計画した事業のサービスを提供するところです。

(乳幼児対象の歯科検診、妊婦や成人を対象に歯科疾患予防の歯科衛生教育、保育園・小学校などで行う集団指導、高齢者を対象とした口腔検査、住宅の高齢者を対象とした訪問歯科など)

### その他

#### ●企業内歯科診療所

大企業の中で、従業員のために歯科診療所を開設しているところです。

#### ●フリーランス

専門分野をより深く研修した衛生士は、単独で起業しています。自分で仕事を組み合わせ、いくつかのクリニックと契約して働いたり、企業からの依頼を受けてセミナーなどを行います。

#### ●教育現場

ある一定期間歯科衛生士としての経験を積んで、教員講習を受け歯科衛生士養成校での教員になることができます。

## 歯科衛生士のおもな仕事

歯科医師が「歯を治す人」ならば、歯科衛生士は「歯を守る人」といえます。予防医療という意識は歯科にも波及していますので、これからは歯科医師以上に重要な役割を担う職業になるでしょう。すべての健康は口から始まると言われるように、むし歯や歯周病予防はもちろんですが、高齢者に対しては口腔内のケア

の重要性を積極的に指導します。口腔の機能は栄養を摂ることだけでなく、口腔内が清潔であることが、起き上がる、食事を摂るといった日常動作のモチベーション向上に強く関係しているからです。食事が難しい要介護高齢者に対しては、口腔機能の向上としてリハビリ訓練も行います。

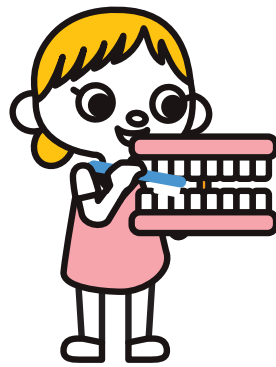
<h3>歯科予防処置</h3>	<p>歯科の二大疾患、むし歯と歯周病の予防をするための行為。フッ素など薬物の塗布や歯石の除去を行います。歯垢が石灰化したものを歯石といいますが、スケーラー（細くて小さい専用器具。電動のものもある）を使って、狭くて複雑な口腔内で歯石を除去するには、熟練した技が必要です。最近では、むし歯・歯周病にならないようにする予防を重視する傾向にあります。歯科衛生士が行う歯科予防処置はとても重要な仕事といえます。</p>
<h3>歯科診療補助</h3>	<p>歯科医師の指示によって医療行為をサポートします。患者さまに危険が及ばない範囲の補助で、必ず歯科医師の指示によって行われます。ただし、それは歯科衛生士の能力あるいは歯科衛生士の勤務場所などによっても異なります。また、治療以外にも、受付事務、診療報酬の請求事務、診療機材や器具の準備、器具の滅菌・消毒作業、治療用薬剤の準備、治療後または治療中の口腔内の清掃、治療後の仮封、X線撮影の補助といった仕事もあります。医療そのものが日々高度化し、新しい技術も導入されていますので、技術を磨き、知識を習得することを怠ってはなりません。</p>
<h3>歯科保健指導</h3>	<p>乳幼児から小・中学生、上は高齢者まで、幅広い年齢層の人たちを対象とした、むし歯予防のための歯磨き指導など。妊婦や生活習慣病の人など、からだの状態や疾患別にも対応しています。単に歯磨きだけでなく、生活の基本となる食生活から健康管理まで、口腔の衛生全般についてサポートします。</p>

## 医院での勤務体制

通常は夜勤や休日出勤はありません。また、医院によって定まった診療時間があるため早出や残業もほとんどなく規則正しい勤務形態といえます。このため、仕事と家事の両立を考える女性には大きなメリットといえるでしょう。また、歯科衛生士の初任給は、概ね 180,000 ～ 210,000 円くらい\*が多いようです。

\*平成23年度 ユマニテック医療福祉大学校 歯科衛生学科に寄せられた求人より

## 歯科衛生士になるためのルート



## 歯科衛生士養成校で学ぶこと

1年次は主に歯科衛生士の専門知識・技術を習得していく上で必要な生物学や化学といった基礎分野、および解剖学や生理学といった専門基礎分野を講義中心の授業で学習し、2年次以降は、講義だけでなく実技を通して、より専門的に歯科衛生士になるための知識・技術習得を行います。実際の歯科医院や病院で行われる臨地実習にも多くの時間が充てられています。

## 4つのカリキュラム

養成校のカリキュラムには、大きく以下の4つに分けられます。

### 基礎科目

「専門基礎分野」および「専門分野」を習得していく上で必要となる基盤をつくるため、「生物学」や「精神保健学」など医療分野の基本となる学習を習得する他、「基礎統計学」や「心理学」などで科学的・論理的な思考力を養います。

### 専門基礎科目

人体並びに歯・口腔の構造と機能および心身の発達を系統だてて理解し、健康や疾病について、その予防と回復過程に関する知識を習得します。また、歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組みについても理解します。

### 専門科目

歯科医療の概要とその診療補助の基礎的理論や基礎的技術を学び、歯科衛生士の業務である「予防」「保健指導」「診療補助」について、講義や実技を通して実践的に学びます。

### 実習

専門基礎分野や専門分野の各科目の中で行われる実習は、主に学内の実習室で行われますが、臨地（臨床）実習は、そこで得た知識や技術を、実際の歯科診療所等の実践の場面で適用し、理論と実践を結びつけて理解できる能力を身につけます。

## 歯科衛生士国家試験の合格状況

	受験者数	合格者数	合格率	備考
第21回歯科衛生士 国家試験合格状況	3,661	3,507	95.8%	一般問題を1問1点(219点満点)とし、次の合格基準のすべてを満たした者を合格とする。 ●総得点 132点以上/219点
第20回歯科衛生士 国家試験合格状況	5,788	5,585	96.4%	一般問題を1問1点(199点満点)とし、次の合格基準のすべてを満たした者を合格とする。 ●総得点 120点以上/199点
第19回歯科衛生士 国家試験合格状況	5,929	5,761	97.1%	一般問題を1問1点(199点満点)とし、次の合格基準のすべてを満たした者を合格とする。 ●総得点 120点以上/199点

**歯科医療は、歯科医師だけで成り立つものではありません。**

歯科医療は、歯科医師だけが居れば成り立つものではありません。

在宅歯科医療の充実化やう蝕・歯周病予防をはじめ、口腔衛生プランの作成など、歯科衛生士に期待される役割は、今後拡大していくことは間違いありません。欧米では予防に特化する形で独立して開業できるところもあります。これからも歯科疾病構造の変化、歯科診療報酬体系の変化、混合診療の一部導入など、歯科医療を取り巻く環境が大きく変わっていくことが予想されるなか、歯科衛生士の業務範囲の見直しをはじめ、歯科衛生士を取り巻く諸問題にも、取り組んでいかなければなりません。

---